

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 笑顔棟 )

事業所番号	0272701095		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム小春びより2号館		
所在地	青森県新郷村大字戸来字金ヶ沢坂の下9		
自己評価作成日	平成 22年 7月 12日	評価結果市町村受理日	平成 22年 11月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流を深める為イベントへの積極的参加し、また利用者が安全に安心して楽しく暮らせるよう日々努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigoiyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272701095&amp;SCD=320">http://www.aokaigoiyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272701095&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成 22年 8月 31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識を踏まえ「地域との交流を図り家庭的な雰囲気の中で、その人らしくありのままに安心して暮らせる第二の我が家」「元気・笑顔」を理念に掲げ、毎朝の朝礼で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントの村祭りや綱引き大会、クリスマス会、保育園のお涼み会や運動会、小学校の相撲大会や学習発表会など積極的に参加させて頂き、地域の方々と顔なじみになれるよう交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践者研修に参加したり、外部からの実習生を受け入れ認知症の方々の理解を深めている。地域の方々には広報誌に記載し、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の協力を得て、今年度から年6回開催する予定。自己評価や外部評価の結果やホームの様子など報告したり、意見交換をし、有意義な時間となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村の担当者が推進会議に参加し、自己評価や外部評価の結果報告をしている。しんごうグループ全体の広報誌は、村民全員に配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	マニュアルを作成している。やむを得ず行わなければならない時には、ご家族の了解を得て経過観察し記録に残す体制は整っている。また、定期的に身体拘束の勉強会を行っている。玄関は朝6時から夜の9時まで施錠せず自由に出入りできる。無断外出に備えホール入り口には鈴を付けて開閉時、聞こえる様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを作成し、取り決めている。また定期的に勉強会を行っている。常に利用者の身体観察をし変化や異常に気づけるように、職員間のコミュニケーションを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	定期的に勉強会を行い日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には書面と口頭にて説明を行い利用者、ご家族の疑問点や不明点に関し十分な時間を取り理解を得られている。また、契約書は2部に同意、捺印を頂きご家族と施設とで保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意し、苦情や意見を出しやすいようにし、苦情窓口を設けている。利用者からの意見や苦情に関し個別になれる入浴時等に引き出し、出された意見等の対応としては随時話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や年2回の面談時等にて意見や提案を聞く機会を設け検討し反映させている。勤務体制は職員の希望を取り入れている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にて取り決めている。年2回健康診断を行っている。また年2回の面談で日頃の努力や実績について評価し、向上心を持って働けるように働きかけている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力に合わせた研修を受講できるように配慮し、受講後は月1回の会議にて伝達講習を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会等に参加する事で同業者との交流を図れる機会を作り、情報交換等行う事でネットワークを広げサービスの質の向上に努めている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や思い、希望を聞き安心出来るような関係づくりに努めている。また出来る事を見極めながらニーズを把握し安全に、安心して生活出来るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時ご家族の悩みや相談を聞き安心出来るような関係づくりに努めている。またご家族の希望やニーズを把握し思いに沿えるよう努めている。いつでも相談できる体制は整っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族とのニーズを踏まえて必要な支援をしている。すぐに対応できない事については方策を検討し、対応できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力や意欲に合わせ軽作業を手伝って頂いている。またその時々感情を受け入れた対応をするように働きかけているが対応は人それぞれになっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事参加時など情報交換を行い、ご家族と本人との関係づくりをしている。また遠方の方々には手紙や電話で報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人の面会見られている。希望に出来るだけこたえられるような体制を整えており、時にはドライブに出かける機会を設けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の体操や食事、食後の後片付け等利用者同士声を掛け合っている。職員は利用者が孤立しないように見守りフォローしている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になっても本人やご家族の不安を和らげる様な対応に努め、今後についての相談や対応に考慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の気づきを申し送り、本人やご家族の思いや希望を把握出来る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面談時に情報収集にセンター方式を用いて生活歴やライフスタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者を個別に観察し、出来る事や分かる事等の気づきを申し送り、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日頃の様子を観察し、棟会議などで情報交換をし、本人やご家族の思いや希望に添えるよう担当者と計画作成担当者、ホーム長で作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に用意しており、介護計画に基づき実行している。その際利用者の状態や気づきを記録に残し、全職員が共有できるようになっている。介護記録を見直す際には記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議には村の民生委員や老人会の会長が参加し、情報交換をしているため地域イベントへの把握ができ、参加させて頂き楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望の医療機関を継続して利用できている。また、ご家族が受診へ行く際には日頃の状態報告を書面にて行い、受診後には報告を受けている。状態の変化時には医療機関に報告相談できている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の人員配置はないが、系列の事業所の看護職員に相談できる体制は整っている。また、医療機関利用時には看護師へ要点をまとめて報告できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になっても入院期間2週間以内は居室を取っておける体制は整っている。ご家族と医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の体制は整っていないが、利用者の状態報告をご家族にしている。重度化した場合にはご家族と相談し、希望に沿えるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル作成しており、定期的に勉強会を行っている。また、救急講習会に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定で避難訓練を行っている。9月には消防と地元の消防団との合同避難訓練の実施予定。定期的に消火器の整備点検を行い、非常食も備蓄している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーや個人情報に関する勉強会を定期的に行っている。職員によっては声掛けや対応に配慮が欠け不適切な対応となっている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を表せられるような問いかけを行っている。また、本人と共に考えながら自己決定が出来る様に働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた対応の必要性について勉強会を行っているが、スタッフによっては業務優先になっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には本人の希望に沿ったおしゃれをしている。また意思表示出来ない利用者にはいつもと違う衣類を選んで選択できるようにしている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士にて立てられ利用者の希望にその都度対応はできていないが、誕生会には好きなものを提供している。食事は職員も共に食べ、食後の後かたづけは利用者と共に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残している。食事や食器は本人に合わせたものになっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の保清についての理解は職員出来ている。利用者の個々の習慣や能力に応じた対応をしている。夕食後には義歯洗浄剤にて義歯の手入れを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排尿パターンを把握し、サインを見逃さないようにし、オムツ着用せず布パンツにパッド使用にてトイレ案内を行っている。また、プライバシーに配慮している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因について理解できており、日中の活動量や水分量等健康状態の観察し安易に下剤の使用に頼らず自力排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り本人の希望に添えるよう努めている。入浴の際には今までの習慣や出来る事を奪わないようにサポートしている。入浴を希望しない場合には無理強いせず3日に1度の入浴を勧めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで休めるようにし、睡眠観察や日中の活動量の観察をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服箱に個々の内服薬の内容や効能について写真を張り付け、誰でも確認できる様なシステムで対応している。また、飲み込み確認をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かし、意欲を引き出しながら個々にあった役割や余暇時間の提供をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に合わせて利用者と相談し、希望に沿えるようドライブに出かけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者にとってのお金の大切さを理解している。外出時や買い物時には本人の能力に応じ自分で支払えるようにサポートしている。お金の管理に関し本人とご家族と話し合い自己管理できる金額を決めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時にその都度対応しており、手紙を読めない時には居室にて読む等し、プライバシーに配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は利用者が不快にならないようにテレビや音楽の音量、職員の声等にも配慮している。また照明も日差しを取り入れ適切な明るさにし、季節感を感じられるような装飾を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや畳を用意し、廊下には休めるイスを置いている。利用者がくつろいだり団らんしている様子を見られている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を持ち込んで頂けるよう説明をし促している。また、居室作りは本人と共に行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベッドの高さやタンスの位置等使用しやすく設置し、歩行時妨げになるようなものは除去している。各居室には名前と写真を添え表示し、利用者の混乱やトラブルは見られない。			